

夢塾だより

～ 9年目の夢塾～

(81号) 令和6年4月24日

数学を学ぶことは、人類の進化の歴史を学ぶこと、宇宙の真理に触れることであると最近思うようになりました。数学を教えることは、人間の持つ思考力を秩序立てて整理し、統合させ、迫りくる未知の問題を解決する手助けを授けるすべであり、生きていくうえで最も崇高な、考える力を育てているものだと思うようになりました。

25歳ころから数学を中学生・高校生に教える職に就いた私は、69歳になりました。45年もの間、数学を通してものを考え、行動してきたこととなります。

『数学で夢を叶える』というのは夢塾のキャッチコピーですが、私の場合「数学」で夢が叶っているかもしれません。高校時代は死ぬほど嫌いだった「数学」が、こんなにも私を幸せにしてくれている。なんと素敵で、「有難い」ことでしょう。

「数学」という言葉を「学問」という名で言い換えても同様なことが言えると思います。どんな学問でもそれを学び、理解できた喜びは、人間に最大の幸福をもたらします。そうなんです。「学問は人間を受容するのです。受け入れるのです」学問側からは人間を選びません。人間が学問を選び、勝手に好きになったり嫌いになったりするのです。



山田洋二監督の『男はつらいよ』の中で、大学受験に悩む甥っ子の光男が、寅さんに訪ねます。

光男：「おじさん、なんのために大学へ行くのかなあ？」

寅さん：「そりゃあ、勉強するためです」

光男：「じゃあ、なんのために勉強するのかな？」

寅さん：「長い間生きていると、いろんなことにぶつかる。そんな時にちゃんと勉強していない人は、サイコロの目とか気分で決めるしかない。でも、ちゃんと勉強した人は、自分の頭で筋道を考えて決めることができるのだ。」

道を考えて決めることができるのだ。

えらそうなことをかきましたが、寅さんのひと言がすべてでした。